

持続可能な「支援案」を作成せよ！

実施校：明徳学園相洋中高等学校 教諭名：大廣光文

対象	高校1年	単元名
科目	地理B	アフリカ州 —ミッション 持続可能な「支援案」を作成せよ！
時間	8時間構成	目標
参考資料	田中治彦・三宅隆史・湯本浩之(2016)『SDGsと開発教育』、学文社。	

期待できる学習効果

- その1 相互貢献の視点から、協働してテーマに取り組むチーム力の高まり
- その2 相手軸からよりよく伝えるための工夫や内容を伝えるための言語技術等の表現力の向上
- その3 「誰のための支援か」を考えることで、支援を受ける側にとっての本当の持続可能な支援とは何かを探求する力の育成

授業内容や授業

本単元における目標

新詳地理B(帝国書院)における現代世界の地誌的考察(第1章 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ)において、「ミッション」を設けることで、アフリカ州への支援のあり方を探求する学習をねらいとした

◎ミッション：アフリカ州にある国の中から1か国を任意に選び、その国の支援計画をSDGsの視点からワークシートを用いて立案する

○主な学習内容と進め方

●導入 本単元を構成する深い問い合わせの設定、基礎・基本となる知識の共有

【第1時】ゼロベースの生徒たちを前提に丁寧にSDGsを説明し、本単元を貫く深い問い合わせを設定する

●展開

【第2時】SDGs17のゴールから1つを選択し、その視点からアフリカ州の国への支援案をつくる

【第3時】『未来を変える目標』を活用して、SDGs17から169の小窓へと視点を深める

【第4時】発表するチームを作り、1週間の準備期間を設け、17の視点からの中間発表をチームで行う

【第5時】未完結の場合は中間発表の続きをを行い、終わり次第個人とチームで「振り返り」を行う。

【第6時】17の視点からの探究の際に生徒が取り上げたアフリカ州の国同士でクロスカップリングをする
例. 中央アフリカ共和国 (1「貧困をなくそう」× 16「平和と公平をすべてに」)

【第7時】クロスカップリングで作ったペアで、最終プレゼンテーションの準備を進める

【第8時】2人1組のペアがそれぞれ持ち時間5分程度でプレゼンテーションを行う

声・表情の工夫	声が教室全体に届き、表情が生き生きとしていたか
ジェスチャー・間	身振り手振りなど工夫したり、効果的に「間」をとっていたか
内容①	現地の人にとって役立つ支援だと納得することができたか
内容②	説得力があり、実現可能な支援案であったか
内容③	チームでの連携が取れていて、良い発表になっていたか

※採点は、発表するチーム以外が上の観点から、○・△・×で採点シートを使って採点

持続可能な「支援案」を作成せよ！

実施校：明徳学園相洋中高等学校 教諭名：大廣光文

授業の様子

支援国
国名：選択した持続可能な開発目標【（6番）
中央アフリカ共和国 幸和と公平をすべての人々に】

支援事業の目的・対象：
アフリカの紛争が貧困で苦しむアフリカ大陸の人々に、
豊かな生活と平和と安全（平等）をもたらす
ボクシング：競争のため、力を發揮した笑顔などが発見できました。

支援内容の目的
① 貧困をなくす。
② 食料品・医療品・医療機器などの供給。
③ アフリカ大陸へ物資の輸送。
④ 経済成長。
⑤ 地域開発。
⑥ 機械設備の整備。
⑦ 公共事業。
⑧ 地元の資源を活用して地元の経済活性化。
⑨ 国内統治の強化。
⑩ 経済成長。
⑪ 経済成長。

支援事業の実績
① 物資輸送。
② 生産性向上。
③ 地域開発。
④ 基本情報。
⑤ 動植物保護。
⑥ 公共事業。
⑦ 経済成長。
⑧ 地元の資源を活用して地元の経済活性化。
⑨ 国内統治の強化。
⑩ 経済成長。

ボクシング：アフリカ大陸は、手間を惜しまず現地で行動していくのを最も難しく。

予想される問題点：豊かな生活を生み出すには、資源がなくて豊かできる可能性はないのか？
→資源豊富な国では、アフリカ大陸では、資源がなくて豊かできる可能性はないのか。
現地を走っている車両が過度な排出ガスで現地を汚染しているのか？
→資源豊富な国では、資源がなくて豊かできる可能性はないのか？
アフリカ大陸は豊かな資源があるが、豊かさでなく豊かさがない。
アフリカ大陸は豊かな資源があるが、豊かさでなく豊かさがない。



生徒のワークシート作成例② 【南アフリカ共和国】

支援国
国名：選択した持続可能な開発目標【（8番）
南アフリカ共和国 動きがいい経済成長】

支援事業の目的・対象：
地方の人々が良いくらいをすすめには、自分たちがいい生活を見習う
目的…地方の人たの生活標準を上げる
対象…貧しい生活をしている地方の人々
対象…豊かな生活をしていきたい地方の人々
現地の生活環境は、豊かな生活をしていきたい方々が、現地で生活していない。

支援内容の目的
① 豊かな生活を。
② 現地の人々と交流する。
③ 現地の人々と協力して、現地の人々と交換する。
④ 現地の人々と協力して、現地の人々と交換する。
⑤ 現地の人々と協力して、現地の人々と交換する。

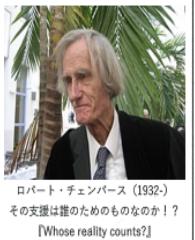
支援事業の実績
① 豊かな生活を。
② 現地の人々と交流する。
③ 現地の人々と協力して、現地の人々と交換する。
④ 現地の人々と協力して、現地の人々と交換する。

ボクシング：アフリカ大陸は、手間を惜しまず現地で行動していくのを最も難しく。

予想される問題点：豊かな生活を生み出すには、資源がなくて豊かできる可能性はないのか？
→資源豊富な国では、アフリカ大陸では、資源がなくて豊かできる可能性はないのか。
現地を走っている車両が過度な排出ガスで現地を汚染しているのか？
→資源豊富な国では、資源がなくて豊かできる可能性はないのか？
アフリカ大陸は豊かな資源があるが、豊かさでなく豊かさがない。
アフリカ大陸は豊かな資源があるが、豊かさでなく豊かさがない。

国別
死率
ニキシング
※南アフリカも死率が高い

国別	死率	ニキシング
1 レバント	レバント	レバント
2 アフリカ	アフリカ	アフリカ
3 ニューバギー	ニューバギー	ニューバギー
4 南アフリカ	南アフリカ	南アフリカ
5 ミエルボルグ	ミエルボルグ	ミエルボルグ
6 カンボジア	カンボジア	カンボジア
7 モロコシ	モロコシ	モロコシ
8 ナンベヤ	ナンベヤ	ナンベヤ
9 カルムニカル	カルムニカル	カルムニカル



ロバート・デニーロ（1932年）
その支援は誰のためのものなのか？
『Whose reality counts?』

自己評価	
必要性	意味があるのか
有効性	役に立つか
効率性	予算は大丈夫か
公平性	不公平にならないか？
実現可能性	実現できるのか
◎・○・△・×・?	で評価

中間発表日 1月 23日
提出期限 2月 1日
プレゼン予定日 2月 7日

生徒のワークシート作成例① 【中央アフリカ共和国】

子どもたちの反応・感想

アンケート分析 —開発教育における学習の4段階(田中モデル)

●【振り返り】

「SDGsはただ一方的な支援をするのではなく、支援したいと思う人々と同じ目線になって考え協力することが大切だと知りました。支援は簡単に言葉ではすませていけないものだと知れたので良かったです(高1男子)」「支援案は口ではなくとも言えるけど、改めて行動していくといけないと思います。じつは考える時間で感染症や食べ物がない人々は苦しんでいるから行動していくべきです。大人になったら現地に行って、話してどうしてほしいか一緒に考えたいです(高1男子)」「誰も置き去りにしないということを踏まえた上で考えることができた。これをふまえ、また1から考えていきたい。将来SDGsを大学でもやっていきたいと思えた。(高1女子)」

上に紹介した振り返りは、単元終了後に行ったアンケートの一部である。アンケート結果を「田中モデル」を活用して分析したが、第2段階【問題に対して基礎的な知識を得る。ときに単純な行動を起こす】に留まる生徒が少なくなかった。8時間という時間を使って取り組んだこともあり、第2段階未満の理解に留まった生徒は、2クラス(86名)合わせても12名(14.1%)と少数であった。しかし、関心の喚起や知識の獲得だけではなく、第3段階となる【問題の複雑性を理解する。具体的な行動はとりにくくなる。それでも関心をもち続ける】まで探究できた生徒はごくわずかに限られた。とはいえ、将来の進路選択に、SDGsをテーマとして選ぼうと考えた生徒が現れたのも事実である。今後もSDGsを取り入れた授業実践に力を入れ、生徒を積極的に巻き込んでいきたい。